香淳皇后武蔵野東陵営建関連工事箇所の調査

平成12年６月に開始された香淳皇后武蔵野東陵営建工事及びこれに関連した工事が、平成13年度も引き続き行われ、これに伴い５月７日から７月12日の間、次の９箇所の立会調査を行った（第42図）。

(1)　昭和天皇武蔵野陵見張所新築工事箇所

見張所基礎部の掘削（長さ９ｍ、幅６ｍ、深さ0.4～1.2m）に立ち会った。表土の下はロームブロック、ガラス片、ビニール片が混入する暗褐色土の客土である。山側（西側）でその直下からローム層が検出された。

(2)　香淳皇后武蔵野東陵裏斜面土留擁壁工事箇所

武蔵野東陵の後背北東側裏山の北東急斜面に擁壁を設置するため、その掘削（長さ24m、幅約11m、深さ７ｍ）に立ち会った。平坦部の表土は工事用道路を整備するための盛土で、斜面には腐葉土が表土として遺っている。深さ約0.2mでローム層に至るが、斜面側は大きく崩れており、その上をロームブロック、暗褐色土、黒色土が覆う。掘削北面のほぼ中央に、上幅約1.6m、深さ約2.6mを測る先細りの落込が認められたが、何らかの遺構なのか、樹痕なのか、決手がない。電柱のような工事施設の痕の可能性もある。

(3)　武蔵陵墓地裏参道電気線・給水管埋設工事箇所

裏参道における電気線・給水管の埋設（延長約351m、幅1m、深さ1.2m）に立ち会った。表土層はセメントと土を混ぜ合わせた地盤改良面で、その下にはローム混じりの灰色土や黒色土が数層見られ、混じりけが多く、人為的な客土と考えられる。客土中から陶器片が出土。

(4)　武蔵陵墓地表参道手水鉢設置・給水管埋設工事箇所

表参道入口付近に手水鉢を設置し、これに裏参道入口付近から給水する水道管を埋設するため、その掘削（延長約45m、幅1m、深さ0.8m）に立ち会った。掘削範囲は、上から砂利層・黒色土層・ローム主体の客土層であった。

(5)　昭和天皇武蔵野陵見張所浄化槽設置工事箇所

(1) の見張所に設置する浄化槽の掘削（長さ2.8m、幅２ｍ、深さ2.4m）に立ち会った。表土の下は５層に分かれるが、最下層の黒灰色土中から加工された木材片や水道管と思われる鉄管片が投げ込まれた状態で検出された。武蔵野陵造営時に整地する際、儀式用建物使われていた木材の残片等が客土に混入したものと考えられる。

(6)　武蔵陵墓地通用門付近ほか電気線・給水管埋設工事箇所

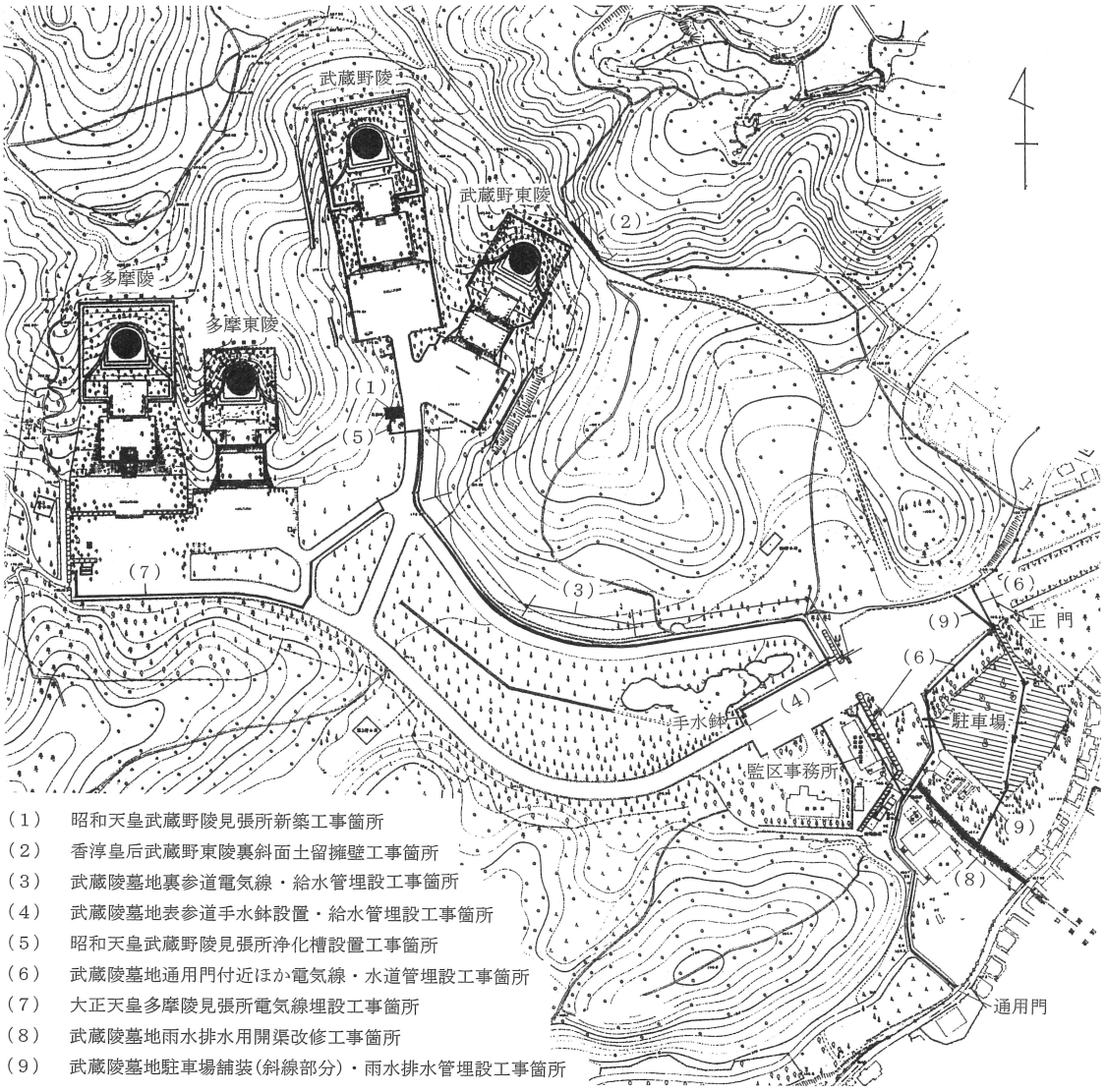
通用門～總門の延長260mと、途中から分岐して監区事務所に通じる長さ55mの掘削（幅１～２ｍ、深さ0.7～1.5m）に立ち会った。通用門付近では、表土の下に黒褐色土層があり、一部にロームが検出された。黒褐色土中には陶器・土師器の破片が混入しており、整地のために客土されたものと考えられる。監区事務所付近は、13年に排水用塩ビ管埋設工事を行った箇所で、煉瓦・瓦・磁器・プラスチックが混じる埋戻土である。總門付近では、表土の下に磁器片や番線が混入する暗黄色土があり、整地のための客土と考えられる。その下には、砂や拳大の礫が混入す

る軟らかい茶褐色土層が見られた。陵墓地となる以前、この駐車場の辺りは水田や畑地であったといわれ、その頃の地表面とも考えられる。

(7)　大正天皇多摩陵見張所電気線埋設工事箇所

裏参道と武蔵野陵参道の分岐点から多摩陵一般拝所南端の山裾を通って在来見張所までの掘削（延長約212m、幅１m、深さ0.7m）に立ち会った。見張所付近では、表土下の茶褐色土層があって、その中に在来見張所水道管（塩ビ管）のほかに３本の鉄管が埋設されており、それらの埋戻土である。その下は黒褐色土層となり、深さ0.7mで雨水排水用のコンクリート暗渠が検出されたので、この埋戻土である。一般拝所南端の山裾では、表土の下に川原石が敷かれ、その下にはロームブロック混じりの茶褐色土層、ロームと黒色土の混入土層の２層が見られる。下層は山側から拝所方向へ傾斜しており、この層の上にロームブロック混じりの茶褐色土を客土して一般拝所構築のために整地したものと考えられる。裏参道と武蔵野陵参道の分岐点付近では、玉砂利の下に川原石が敷かれ、その下はロームや黒色土を客土して整地している。黒色土中には、釘や庭の敷石などに用いられる板石が混入している。

(8)　武蔵陵墓地雨水排水用開渠改修工事箇所



（1）　昭和天皇武蔵野陵見張所新築工事箇所
（2）　香淳皇后武蔵野東陵裏斜面土留擁壁工事箇所
（3）　武蔵陵墓地裏参道電気線・給水管埋設工事箇所
（4）　武蔵陵墓地表参道手水鉢設置・給水管埋設工事箇所
（5）　昭和天皇武蔵野陵見張所浄化槽設置工事箇所
（6）　武蔵陵墓地通用門付近ほか電気線・水道管埋設工事箇所
（7）　大正天皇多摩陵見張所電気線埋設工事箇所
（8）　武蔵陵墓地雨水排水用開渠改修工事箇所
（9）　武蔵陵墓地駐車場舗装(斜線部分)・雨水排水管埋設工事箇所

第42図　武蔵陵墓地調査箇所位置図（1/4000）

在来雨水排水用開渠を改修するため、その掘削（延長80m、幅２m、深さ２m）に立ち会った。当初は同位置で施工を予定したが、開渠西沿いに並ぶ樹木が掘削の影響で倒れる恐れがあるため、東へ約２mづらして掘削することとなった。表土の下には黒色土、その下には砂利層、茶褐色土層が見られ、ローム層に至る。ローム層上面は南に行くにしたがって下がり、工事区域の北側で地表下約0.9m、中間部で約1.6mでローム層に至り、侵入防止柵から北約10mで掘削床面下に潜る。砂利層から上は、混じりけのある土で、客土と考えられるが、下の茶褐色土層は混じりけが少なく、自然堆積土の可能性もある。

(9)　武蔵陵墓地駐車場舗装・雨水排水管埋設工事箇所

正門南の駐車場舗装の掘削（3、500㎡、深さ0.8m）と正門～駐車場～雨水排水用開渠間の排水管埋設の掘削（延長約160m、幅0.7m、深さ１m。マンホール設置箇所は径0.9m、深さ1.5m）に立ち会った。表土（砂利層）の下約0.5mまでは、武蔵野陵造営時に駐車場を整備した際の整地層である。その下に見られる暗褐色土には、土器、磁器、木の破片が混入しており、客土と考えられる。

以上、今回の立会調査においても、遺構は検出されなかった。　（佐藤利秀）